



① 沖の口奉行所

蝦夷地に出入りする船・荷・人などをあらため、徴税する役所。蝦夷地に入ろうとする者は、お白洲で裸にされ、刀傷や入れ墨がないか等を調べられました。



② 商家 (近江屋)

松前城下には近江商人や北陸地方の商人が多く住んでいました。彼らは北前船が運ぶ荷や、蝦夷地各地の場所請負人となることで、財を築きました。



④ 髪結

現在の床屋。当時マゲを結うのは専門の職人でなければ難しかったです。店には待合室があり、社交場の役目も果たしました。



⑤ 民家

庶民の生活は、せいぜい2間程度の棟割長屋がほとんどでした。屋根は桎蓐の質素なものです。



⑥ 漁家

松前の中流の漁家を再現したものです。漁家は磯舟か保津船を持ち、2、3人の出稼者を使いにしん漁に従事していました。



⑦ 廻船問屋 (合敦賀屋)

松前は交易で栄えた藩。当時10～15軒の間屋があり、昆布など蝦夷地の産物や、松前の生活物資など、北前船の荷がここで上げ降ろされました。

⑧ 廻船土蔵



表門をくぐるとそのこはもう江戸時代のたまたま、松前藩時代の歴史の面影を、実際に体験できます。

松前藩屋敷

「松前の五月は江戸にもない」とうたわれた松前の栄華を再現する「松前藩屋敷」



⑩ 花見茶屋 (お休み処)



⑪ 武家屋敷

松前藩士最末席の士分の御先手組席。(110石高) 家臣の屋敷を再現したものです。士分は、武家門、武者屏に囲まれた広大な屋敷を構えていました。



⑫ 番屋

蝦夷地の特産物にしん。3月から5月の漁期にはたくさんのお出稼漁夫が松前を訪れ、番屋で寝泊まりしました。群衆の時には、寝る暇もなく、立ったまま食事をしたそうです。



⑬ 自身番小屋

海岸で風の強い松前は火事が大敵。自身番小屋は、本来は交番の役割のものです。松前市街では火の見番所でした。夜は拍子木をたたいて町内をふれて歩きました。



⑭ 旅籠 (棧越後屋)

今でいう旅館のことです。入り口を入ると帳場があり、これに多くの客室が続いていました。



⑨ あさみ商店

手作り松前漬専門店